



目次

役員研修……………	2~4	年金友の会「お楽しみ会」	12
青年部のページ……………	5	別海高校……………	14~15
海外視察研修……………	7~10	理事会の動き……………	18
女性部のページ……………	10~11	年末・年始の業務日程表……………	19

春別寿会「子供との交流会」が10月25日、菊水会館で行われました。「パン釣り競争」では、大人も子供も一緒になって交流を深めました。

酪農・畜産を取り巻く 情勢変化に的確に対応できる 体制づくりを目指して

平成26年度役員研修を10月14日から17日にかけて役員11人、事務局2人により関東方面において実施いたしました。都内にあります全国酪農業協同組合連合会と中央酪農会議を訪問し、酪農・畜産情勢の現状把握と意見交換を行いましたので、その一端をご報告します。

全国酪農業協同組合連合会（全酪連）

清家専務理事より、全酪連事業の利用・協力に対してのお礼と歓迎の挨拶をいただき意見交換に入りました。

前段、小谷総務部長より全酪連の事業概要、内藤企画課長よりTPP・農協改革・酪肉近代化基本方針等にかかる直近の情報提供をいただきました。

○全酪連の事業概要

昭和25年設立、
会員数198人（H25）、
取扱高111.9億円（H24）

購買事業：指導購買、生産資材の供給

畜産事業：搾乳用素牛事業、肥育事業、食肉事業

酪農事業：生乳共販事業、乳食品事業、生乳流通システム

指導事業：会員組織の整備強化、全国酪農青年女性会議活動、酪農ヘルパー制度への支援、調査・広報活動、酪政活動

全酪連では、都府県の乳牛購買で8000頭、北海道への預託で4000頭（い

ずれもH25実績）の取り扱いをしています。酪農が加速する中、全国ベースで経産牛が年間1万5000頭減っており、今後の生乳生産への影響を危惧しています。このような中で、都府県の乳牛購買意欲は落ち込み傾向にあります。北海道への預託の希望は増えています。飼料代などの高止まりから、自家育成より預託した方が経済的・労働的に負担軽減されることや、牛の仕上りの良さからも預託の需要が増えており、今後、北海道と都府県の架け橋として事業拡充を考えていきたいとのことでした。

また、次の事項に関して情報提供がありました。

○TPP関連

日米間の隔たりがあり、先が見えない状況にありますが、日豪間では、牛肉・乳製品で一定の合意が成されたので、TPP議論の中でも一つのポイントと考えられるであろう。

関税の執行については、日豪EPAを例にとると、国会に関連法案が提出され成立すると、年度内に関税率が下がる流れとなります。

○農協改革

政府が農協法に位置付ける中央会制度を新たなものとする方向に変わりはなく、全中では対応策を改革本部で検討しています。

全農の株式会社化に関し



ては、株式会社も選択できるようにする見込みですが、全農では専門委員会を立ち上げて、メリット・デメリット等の検討に入っています。全酪連としては、これらの動きを見て、実績の評価をしてから組織検討することになるであろう。

政府の規制改革会議の構成を見ると、歴史ある老舗の企業家がおらず、いわゆ

る「二発屋」の発想であり危惧しています。農協が永年にわたり過疎地域や中山間地域で果たしてきた地域形成の役割を理解されていません。

○酪肉近代化基本方針

数値目標が実態と乖離しており、現実的な目標にすべきとの声が酪農部門の委員から出ています。酪農・畜産の国内資源、生産基盤が縮小している中での組み立てについて、大きな課題が出ているのが現状です。

一般社団法人

中央酪農会議

(中酪)

迫田専務理事・内橋事務局長より、同会議の業務内容の説明と酪農を巡る情勢について情報提供をいただき、意見交換をいたしました。

○中央酪農会議の目的と主な事業

(1)酪農セクターの中央団体として、指定団体制度を通じて酪農産業の安定と

発展に貢献すること。

- ①全国の約97%の生乳計画生産の設定と進行管理
- ②安全安心な生乳供給に係る現場の取り組み支援
- ③酪農及び牛乳乳製品の理解醸成対策等

(2)会員

- ①地方：全国9地域の指定生乳生産者団体
- ②中央：全中・全農・全酪連・全開連・農中・全

共連の6つの全国団体

国内の生乳生産量は、平成8年度の866万トンから平成25年度は745万トンと、この間で121万トン減つています。平成11年度の酪農乳業大綱では、乳業再編・指定団体の交渉などにより、補給金は市場実勢に反映した価格にするための補助とする目的でしたが、時代の変動に対応できなかつたことが歪みとなり、今の現状に繋がっています。生産目標数量は、生産者が意欲を持つて向かつていける現実に近い数量を設定されたい。

乳質については、現在、都府県の指定団体から、現行の

体細胞基準30万/mlが産次の進んだ乳用牛の有効活用ハードルとなっているとの指摘があり、40万/mlに緩和することが検討されているとのことでした。

当方からは、飲用乳価交渉が決まらず先延びしていることに対して、酪農家が困窮し酪農が加速する可能性もあるため、指定団体が集まった組織であり、早期決着について要望いたしました。

また、乳質については、生産者が消費者に安全で安心できるきれいな生乳を提供す

ることが最大の使命と想っている中で、消費者が北海道と都府県との品質差で混乱を招くことのないように調整するようお願いいたしました。

また、中酪事業の「酪農理解醸成活動」において、生活者及びメディアの捉え方を調査したところ、結果は次のとおりでありました。

- ①生活者は、酪農家の仕事は労働環境が過酷であるものの、「日本の食生活に不可欠」なくてはならない仕事」と評価。期待し、生乳が国産

100%であることの意味があると回答。その理由は、「安心」「安全」でした。

②メディアからは、生活者に知ってもらえるには、「頑張っている酪農家(努力・新しい取組)」「価格以外の価値(安心安全)」「牛乳がなくなるという危機的状況(危機にない)」「訴求が必要

との指摘がありました。

中酪では、この結果を踏まえて、訴求テーマを、①「国産の牛乳乳製品の重要性」、②「日本酪農存在意義」の2つに設定し、「社会(生活者・メディア・流通)における理解浸透」を獲得する取り組みを通じて、「酪農家・後継者の意識啓発」を図ることを目標としております。

そして、これらの活動を中長期的に継続すると共に、2つの訴求テーマをバランスをとりながらパラレルに進行し、時勢を考慮して関心事として浸透させやすい施策を実施していくこととした。

このことに対しては、生活者(消費者)が「酪農は労働環境が過酷」という捉え方をしていることに対して、確かに労働問題はありますが、その表現を全面的に出すと、担い手確保に対する影響も懸念されるため、配慮しながらの活動を提言いたしました。

また、政策について、現状、複数法人は優遇(1/2補助等)されていますが、酪農界の8割以上を占める家族





経営の底上げすることが必要であるため、いろいろな規制や法人要件が付いていることに対して、地域全体が活動できる中身となるよう、酪農関係の全国組織として同じ認識で動いていただきたいと要望いたしました。

なお、次の事項に関して

も情報提供がありました。

○生乳取引関連

群馬県に国内唯一の原乳流通（アウトサイダー）全国ネットで取り扱う会社（株MMJ）があり、今年4月から十勝のある牧場も全量出荷を開始しています。

都府県

の生産が減少したことで、乳業者の受け皿はありますが、乳価に燃料費等の輸送コストをあまり反映していません。輸送をソフトタンクで行っていますが、大手乳業は安全安心面でソフトタンク乳を受け入れる

ことはありません。安全安心のためには、必要な経費が掛かることを、生産者・消費者・卸し流通業者に伝えていきたい。

府県のメガファームは、販売・代金回収のコスト面を考えると、指定団体から抜ける（アウトサイダー）より、指定団体の中にいて（インサイダー）乳価や支援策の要求をしていくとの立場が大半です。アウトになった牧場の中には、インに戻れなくて経営が悪化した例もあり、今後もアウトが増え続けるとは思えません。

府県は地域によって乳量が減っており、組織的に合理化しないと酪農家の負担になります。また、不満が出るとアウト化の流れになりかねなく、組織的に取り組まなければなりません。

一方、ニュージーランドの大手乳業会社「フオンテラ」が、北海道の酪農家に入り、放牧技術の普及に取り組むことに関して、日本での市場開拓が懸念されましたが、あくまで放牧技術の適応性を見るのが実情のように、自国や中国での事業拡

大を考えていると思われるかもしれません。

○異業種の参入

今の課題の中に、酪農を知らない異業種の中小企業が入ってくる可能性があります。何故、夏の需要期に乳が出ないのか、需給調整の意味合いが分からな

いという乳業者が増えていく実態があります。ドラッグストアやスーパーなど、酪農の実態を知らない人たちの進出であり、牛乳は客寄せの目玉的な位置付けで扱われやすい。牛乳を早くから扱っている大手の食品スーパーは、酪農現場や食材として位置付けに理解はあります。ドラッグストア

は、店舗の拡大スピードが速く、他の食品スーパーの価格に影響が出ています。生乳から販売までの体制がしつかりしていれば、常に価格転嫁しやすい仕組みはできますが、力関係で押されているのが実態であり、是正するのは難しい。

また、商社が乳業会社を居抜きで買っている例もあります。自分達の経営感覚

でやればもつと儲かるという外からの目線であり、見えないコストを理解していないため、上手くいっていない場合が多い。北海道では、異業種企業が酪農経営に参入しましたが、2〜3年で撤退している例もあります。

○酪農の6次産業化

競争力強化を図るため、「自分で売る」「輸出をする」「流通の見直し」など、酪農をもっと自由にできるといこととであり、地理的な条件や家族が取り組む条件が揃っていない、上手くいっている方もいますが、皆ができるわけではありません。

経営所得安定対策の議論をしても、TPPの行方についてはつきりしない中では、支援・制度の仕組みが話題となっても深い議論とはなりません。

主な内容は以上のとおりですが、最後に、今回の研修にあたり、ご多忙にもかかわらず対応していただいた「全国酪農協同組合連合会」並びに「中央酪農会議」には、心よりお礼申しあげまして報告いたします。

各地区の盟友が集い、日頃の成果を競う

根室管内JA青年部大会



ユニークな題名で青年の主張を発表しました

青年の主張の予選では、中山泰輔さんが1番目の発表となり、緊張した表情で壇上に上がり、主張がスタートしました。主張の題名は、「飲む！打つ！買う！」と斬新な題名で、どんなことを話すのか会場が注目すると、中山牧場が現在の経営にいたるまでの歴史や、これからの若い酪農家に向けてのメッセージ、未来への展望が語られました。主張が終わると

12月に行われる青年部全道大会に向けて、根室地区の代表者を決めるため11月6日(木)、各地区の盟友が一堂に集まり、「青年の主張・アームレスリング」種目の予選が行われました。

当地区の代表として青年の主張に中山泰輔さん、アームレスリングに遠藤貢紀さんが出場しました。

中山泰輔さん「飲む！打つ！買う！」をタイトルに優秀賞に輝く

アームレスリングに遠藤貢紀さんが挑戦！

青年の主張の予選では、中山泰輔さんが1番目の発表となり、緊張した表情で壇上に上がり、主張がスタートしました。

各地区対抗アームレスリング大会では、各地区から力に自身のある5人の酪農家が集まり、大会が始まる前から会場は異様な熱気と興奮に包まれておりました。

会場から大きな拍手が送られましたが、惜しくも最優秀賞は逃がしましたが、優秀賞を獲得しました。



表彰状を受け取る中山泰輔さん

中春別代表の遠藤貢紀さんの試合は、大会の第1試合目と言ふ事もあり、出場する選手や会場が注目を注ぐ中で試合がスタートすると、秒殺で1回戦を通し、準決勝



各地区から力自慢が集い熱戦を繰り広げました

に進出しました。準決勝は今回、優勝候補の計根別青年部の本田選手との対戦がスタートすると、会場から「負けるな！」「いいぞ！」と声援が飛び、大会中一番の盛り上がりを見せましたが、惜しくも準決勝で敗れてしまいました。今回、代表として出場していただいた中山泰輔さん、遠藤貢紀さんお疲れまでした。



笑顔がしばい

皆さん童心に戻って「パン釣り競争」に参加

世代を超えて盛り上がりました

中春別地区では、年に一度地区内の子供達を菊水会館に招き、子供達との交流会が10月25日(土)に行われました。

この日を楽しみにしていた春別寿会のみなさん、始まる1時間前には会場準備が整い、子供達が来るのを首を長くして待ちました。

子供達が集まると会館の中は賑やかに、みなさんにはゲームが始まる前から子供達と一緒に、ゲームの遊び方を教えたりと笑顔が溢れた会場となりました。

「パン釣り競争」が始まると、子供達はコツをつかむまで、苦戦して「釣れない」と嘆く場面もありましたが、コツを掴み楽しくなると釣

ボトル起こしでは、子供達が簡単にこなしている横で、大人達が、何度も起こそうとすると右に左に倒れ、大苦戦し会場から笑いが絶えずおこり、「惜しいよ！」と

声援が飛び交いました。ゲームが終わる頃には、頼んでいたオードブルなどが届けられ、みんな

なでテーブルを囲み昼食を楽しみました。最後に集まった全員で記念撮影をして、交流会が幕を下ろしました。



なかなか思うように起き上がり苦戦



「食の安全・安心」の関心が高く、 農地維持のため厳しい管理規制

9月20日から29日迄の10日間、北欧根釧合同JA海外視察に参加し、EU28か国の主要となるオランダ、デンマーク、スウェーデンの3か国において、搾乳ロボット製造会社、人工授精所、牧草種子会社、酪農家を視察し、ペレニアルライグラスの利点、搾乳ロボットによる飼養管理状況、乳牛の雑種強勢という3つの視察テーマに基づいて研修を受けることができましたので報告いたします。

搾乳ロボット製造会社
(オランダのレリー社、スウェーデンのデラバル社)

オランダのレリー社は1948年にレリー兄弟が設立し、1992年にアストロノートの開発に成功しています。現在、搾乳ロボットはアストロノートの新型となるA4を製造しています。A4の特徴は、搾乳ロボットに直線的に牛が出入り出来る事と体細胞の高い乳や血乳などの異常乳を電気伝導率で流出先を自動的に選択できる事です。1台あたりの1日の処理能力は、概ね1800kg、2000kgとなっております。

根釧合同JA海外研修



オランダ デンマーク
スウェーデン
農業を視察して

営農部長 館内 啓二

日量30kg×60頭が標準的な数値となっています。オランダの搾乳ロボット普及率は約45%となっており、レリー社の搾乳ロボットが世界の中でも一番売れていて、1万5000台を販売しているそうです。複数の搾乳ロボットを稼働させる場合は、作業の効率化を考慮した牛舎内レイアウトが重要になってくるようです。搾乳ロボットの他にミキシングも兼ねた自動給餌機、自動除糞装置、放牧選別ゲートを製造していました。



搾乳ロボット(レリー社アストロノート)



自動除糞機(レリー社ジュノー)床はスノコ



自動給餌機(レリー社ピクター)



放牧選別ゲート(レリー社)

もう一件のスウェーデンのデラバル社は1878年に創設され、1998年に搾乳ロボットが発売されています。現在、VMS(ボランタリー・ミルキング・システム)搾乳ロボットを製造しています。VMS搾乳ロボットも、乳質の良くない牛乳を電気伝導率で流出先を自動的に選択できます。

スウェーデンでは新規投資の8割が搾乳ロボットであり、国内全体では15%が搾乳ロボットを導入しており、VMS搾乳ロボットの販売台数は世界の中でも2番目で1万1千台とのことです。ミルク生産の研究を行うため隣接してハムラ牧場を所有していて、タイストール牛舎、VMSロボット牛舎、研究開発牛舎の3施設と搾乳ロボットや搾乳機器を展示しているエキシビジョン展示場など見応えがありました。

レリー社・デラバル社とも創始者は酪農家で搾乳作業が嫌だったということから、ロボットの開発に取組んだそうです。

両社共に「トヨタのかん

ばん方式」を採用してから生産性が向上したと説明されました。

搾乳ロボットは、レリー社、デラバル社の他にドイツのGEAファームテクノロジーズのエムアイワンがありますが、残念ながら今回の視察行程にはありませんでした。



自動除糞機(デラバル社)



搾乳ロボット(デラバル社VMS)

家畜人工授精所

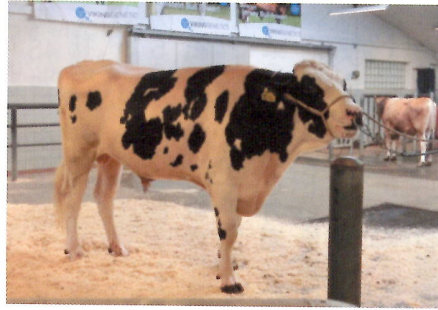
〔デンマークバイキングジェネティクス社ではゲノム評価、スウェーデンバイキングジェネティクス社では雑種強勢を研修〕

「ゲノム評価」

種雄牛の評価法として、DNA配列をデータベース化したゲノム評価を活用していました。ゲノム評価とは、古い種雄牛の娘牛情報DNAの配列をデータベース化し、DNAの配列のタイプと能力・体型・気質・長命・分娩難易度等の形質を関連付け、ヤングサイアーのDNAの配列から遺伝形質を予測する方法です。フランス、ドイツ、オランダ、スペインなどユーロ圏内の種雄牛を繋留する組織間で情報交換し、2万5000頭の古い種雄牛の5万4000カ所のデータを調べ上げ、ゲノム評価の出身や精度も検証していました。デンマークのバイキングジェネティクス社ではゲノム評価による2歳の種雄牛が人気で、1ストロー当たり約2070円程度で販売していました。



授精所の女性スタッフ



ゲノム評価で人気の2歳種雄牛

「雑種強勢」

北欧ではホルスタイン種の近交係数が現状で5〜7%となっていて、基準となる6・25%を超えてきているため繁殖・寿命・乳質に良くない影響があるというところと、赤毛乳用種が在来種としていたことから、酪農

デンマークの種子会社 (DSV種子デンマーク社)

DSV種子デンマーク社は、1921年からデンマークで良質種子の供給を行っていて、イネ科及びマメ科牧草の種子生産と種子混播組合せの開発を担っています。酪農家を作ったヨーロッパを代表する専門会社として育種研究を通して、デンマーク国内の需要に合わせた新品種開発を行っており、農家への技術指導も料金設定されて行われています。種子販売は、飼料用イネ科牧草種子・クローバー種子を始め小麦、菜種などでオンラインショップや流通業者を通しての販売のほか、農家への直接販売も行っています。

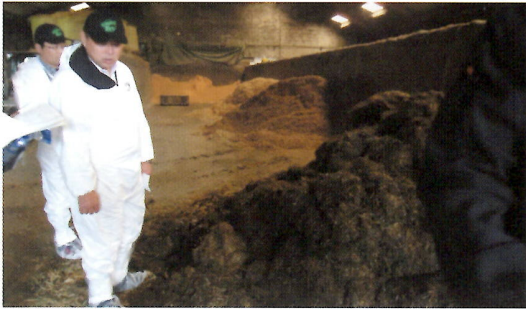
新品種開発はDSV社の主な業務で幅広い草種において品種の改良や育種を行っており、牧草新品種育種目標においては、高乾物収量・品質・消化性・採種性・永続性・耐病性・越冬性・春季草勢・耐乾性・窒素利用効率に重点を置き、特に施肥した窒素量に対する作物収量に

ついで最重要視していました。現在、大豆が高騰していることから代替えて菜種が見直されているとのことでした。こうした中でも、農家への技術的なアドバイスを力を入れており、畑作物あるいは牧草ニーズに応じるため農家と緊密に接していました。

オランダ、デンマーク、スウェーデンの酪農家視察

酪農家は7カ所視察となりましたが、オランダ、デンマーク、スウェーデンとも気候は根釧と比べ比較的気温が高いということがあり牧草の他にデントコーン・大麦・小麦・大豆を自家作付けするなど購入飼料抑制してコスト低減を図っていました。毎年、農用地の25%は大麦を作付して、牧草の殆どがペレニアルライグラスとクローバーの混播となっており、収穫は年3〜6回でその度にスラリー散布がされているなど、草地管理には手間が掛かっていることを感じました。

草地の利用ローテーション



ペレニアルライグラスのサイレージ



ペレニアルライグラス(新播)

ンは、牧草3年、デントコーン1年、大麦1年というローテーションで、必ず大麦を耕地面積の25%耕作していました。ペレニアルライグラスのサイレージは、含糖量が高いということで、色は黒かったものの匂いは甘い

香りがして乳酸発酵されたものでした。ペレニアルライグラスは、再生力が旺盛ということから根釧においても放牧地で活用されています。

飼養管理については、フリーストール牛舎によるパラーカ搾乳ロボットで搾乳しており、何処の牧場も牛舎内や牛舎周辺が綺麗でした。フリーストールの牛舎通路はスラッド方式で、ふん尿はスノコから下の貯留槽に常に落とされる仕組みでアンモニアの発生を抑制するそうです。スノコ方式にする場合、環境負荷の關係で施設整備の際20%の補助があるとのこと。更に空調システムにより臭いが殆どありませんでした。雇用は草地管理専属と牛の飼養管理専属で分かれています。労働時間は週42時間とのこと。デンマークの酪農雇用の給料は、見習いの人には約28万円程度、ベテランの人には47万円〜66万円程度とされ、経営コストの中で雇用費が40%を占めているとのこと。子牛や育成牛の寝床は麦



哺育育成牛舎(デンマーク)

稗を敷き詰めており、暖かく衛生的な管理を行っている。ステンレスの容器に水とエサが入っていてとても衛生的でした。

視察したこの国の酪農家でも、オーガニックに取り組み、搾乳牛の放牧・化学肥料の不使用・シャージー種による高成分の生乳生産・抗生物質使用後は2週間合乳不可・洗剤の規制などを組み合わせがあるようで、特に放牧の取り組みは農場

によって3〜6カ月半という幅がありました。オーガニックにより通常の乳価の1.5倍のプレミアム乳価を受け取っていて、消費者からの

需要も多いようです。北欧ではオーガニックをやる上で特に冬の気温が氷点下5℃程度しか下がらないという好条件が挙げられます。

搾乳ロボットを導入している酪農家では、規模拡大や省力化を図るため導入されていく給餌ロボットや除糞ロボット、放牧ゲート、給餌フィーダーも併用して導入されていました。

飼養管理においては、分娩間隔12カ月〜13.5カ月、長くて14カ月という望ましい状況でしたが、発情は60日ぐらいでマウンティング発情を確認して授精している、特別な事はしていません、ということでした。更に飼養管理でストレスを与えてはいけないというアニマルウェルフェアという動物福祉政策が採られており、子牛の除角の際に麻酔を打って痛みを軽減させるなど、虐待をせず快適性を確保していくということがあり、そうしたことも含めて飼養管理の良さが、健康状態、個体乳量増、分娩間隔の短縮に繋がっていると感じました。

デンマークの酪農家でフ

リーストール牛舎350ヘ
ツド地下貯留槽を含めた建
設コストは、1億3千万円
という説明の中で、コンクリ
ート1m打設するのに約
1900円程度と言う安価
な価格に驚かされました。
リーストール牛舎や育成
牛舎等の中柱が無い牛舎が
殆どで、作業性の良さを感
じましたが、積雪が少なく
地震が無いという自然環境
下では、日本の建築基準と
はかなり隔たりがあるよう
です。

北欧は雇用費が高くコス
ト軽減として、また、建築コ
ストが安いことから規模拡
大の方策として搾乳ロボット



リーストール牛舎(デンマーク)

トにシフトしていくという
流れになっていくと思いま
すが、根釧の酪農家で搾乳
ロボット導入となると、つな
ぎ牛舎から規模拡大を前提
としたリーストール牛舎

建設、糞尿処理施設の増設、
更に農地の確保も前提とな
る場合もあり、高額の投資
が予想されます。現在の北
海道の普及率は2%ですが、
補助付きリースなどの政策
支援により搾乳ロボットの
導入が進んで行くことと思
いますが、搾乳ロボットに適
した乳牛の飼養管理や土づ
くり、草作りの徹底が前提
になってくると思います。

EUは、来年の3月にク
ウォーター制(生産調整の
廃止、ロシアの禁輸措置に
より先行き不透明な情勢で
あり、現地酪農家からは離
農する牧場もあるでしょう
という話をされてきました

が、視察をした中では、規模
拡大を進めていくという牧
場や、現状維持でいくとい
う牧場など様々でした。そ
うした中でも、環境保護活
動が活発なことから遺伝子
組替作物を認可しているの
は「どうもろこしのMON
810」の一品目のみという
ことや、EU共通農業政策
により農家への直接支払に
は環境保全や食品の安全、
動物福祉への遵守が条件づ
けられていることなどがあ
りました。

「食の安全・安心」への関心
が高いお国柄ということと、
歴史的にも、河川や緑地な
どが乏しかったことから農

地の開拓・灌漑の歴史があり、
農地は先祖から受け継いだ
貴重な資源財産として、政
府は農地の維持管理のため
に厳しい規制を設けている
事など説明していただきました。

最後になりますが、英語
が話せない自分にとつては、
同行した根釧各農協の部課
長、企画していただいた関
係機関の職員各位の力添え
で大変貴重な研修をするこ
とができました。そして海
外酪農視察の機会を与えて
いただきました農協を始め、
根釧農協組合長会に対しま
して心より感謝申し上げます。

全道の女性部の皆さんと 2日間にわたり交流しました

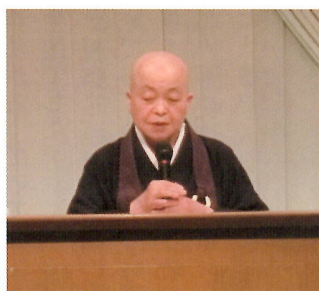
第52回北海道女性大会・家の光大会

11月6日(休)〜7日(金)にか
けて札幌市シャトレレーゼ・
ガトーキングダムサッポロ
で第52回北海道女性大会・
家の光大会が開催され、当

農協女性部から2人が出席
いたしました。

1日目の青山俊董氏の講
演『今ここをどう生きる』
では実際に青山氏が体験し

た話をいくつもお話してい
ただき会場からは笑いがお
こったり、深く共感してい
る方もおり、とても楽しい
講演でした。



青山氏の体験にもとづく講演にみな
さん深く共感

研修終了後の懇親会では
根室地区でライندگانスを
披露し、会場からは大きな

歓声と拍手が送られました。

2日目は前日行われた家
の光記事活用体験発表の表
彰が行われ、優秀賞にはJ
Aふらの女性部三好勝枝さ
んの「「家の光」と進化す
る!」が選ばれました。

JA北海道女性大会での
全体討議では主に女性参画
のことが多く取り上げられ
ており「女性が理事として

フレッシュユミセス部会では、レジンのアクセサリー作りを11月18日(火)団地センタートレーニング室で行いました。レジンのキットをベースにビーズをちらしたり、花を埋め込んだりなど、細かい

作業が中心となりましたが「レジンを含めている間、まだ固まらないかな?」と作品を取り出してチェックするなど待ちきれない様子でした。また、レジンでコーティン

思いを込めた 作品ができあがりしました

レジンのアクセサリー作り



おしゃべりを楽しみながら作品を製作中



グされたお菓子を見て、「非常事態の時にはこれって食べられるのかな?」ほかのお菓子で作ってもかわいいものができるね!」と可愛らしい作品をみながら楽しそうに様子でした。



見事にできあがったアクセサリー、これってお菓子?

活躍されているJ.A.ではどのような活動をしたのですか?との質問には「まず女性部の中で何度も協議し、



ラインダンスを披露した根室地区



手づくりのウエディングドレス



優秀賞に選ばれた三好勝枝さん

その後理事会に提出しその後も話し合いを重ねました。そして検討委員会を開き話

し合いを進め今日に至りません。最初はあまり乗り気でなかったようなのですが一泊二日で長野研修をした際の意見交換会で男性よりも女性の方がたくさん発言をしていたのです。そのような事があって私たちが本気なんだとわかってくれたのかもかもしれませんね。」と応答されました。

その後は手作り工夫展が開かれ中春別農協女性部では押し花で作った女性協マークとちりめんかたどつた花飾りを出展し、テーブルは絶えず人が集まっていました。



多くの女性が参加された第52回北海道女性大会・家の光大会

年金友の会
お楽しみ会

仲間と一緒に 楽しい時間を過ごしました！



年金友の会（高橋昌晴会長）では、11月21日（金）にマールエー温泉俵橋において、62人の参加者のもと「お楽しみ会」を開催しました。年金友の会の行事の中では、一番多くの会員が集う「お楽しみ会」が、「今年も元気に62人の仲間が集まり、開催できた事を嬉しく思います」との高橋会長の挨拶で宴会に入りました。

テーブルを埋め尽くす料理に舌鼓し、余興に「別海ミドルハワイアンズ」のフラダンスで会場を盛り上げていただきました。お酒も多少入り、カラオケが始まると、「今日のために、デユエット曲練習してきたの」「2番で終わらせないで、最後まで歌わせて」と大いに盛り上がりました。最後に皆さん上手い！と本当に皆さん上手い！と最後に恒例のビンゴゲームでは、一喜一憂し、「ビンゴ」との声で、上位5本には豪華景品が当たったため、勝敗をジャンケンで決める場面もありました。



本年度の友の会行事も順調に進み、多くの会員の皆様に参加、協力いただきありがとうございました。

**今年最後の行事に
多くの会員が参加
「来年も元気でお会いしましょう」**

西川副会長の閉会の挨拶にもありましたように、次年度に向けて1人でも多くの方に入会していただくため

に、会員の皆様からも声掛けをお願いします。
「来年も、元気な姿でお会い出来ることを願っております」



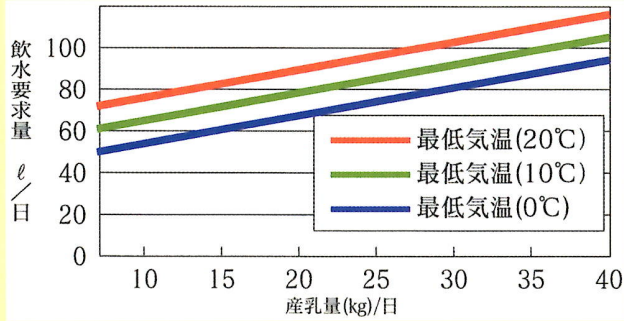


図1 産乳量、気温と飲水要求量の関係 (NRC2001年より作成)

◎夏季間の飲水に関しては、暑熱の問題とともに重要視されますが、冬季間についてはあまり注目されません。水は乾物摂取量の増加や産乳、代謝活動に欠かす事のできないものです(図1)。冬は給水設備が凍っていないか、水が飲めているかを確認しましょう。



育成牛と乾乳牛は特に注意が必要!! 冬場、水の飲めない環境にいませんか?

水、飲めていますか?

凍結防止と事例紹介



水槽の上にヒーターを設置



こまめに氷を割る
滑り止めの砂や解氷剤をまく



ゴムマット設置で踏むと氷が割れる

フリーストール通路

水、飲みたい...



水槽周辺が凍って近付けない!
こうなる前に...

- ～利点～
- ・凍ってもすぐに対処できるので、飲水が制限される可能性が少ない。
 - ・水が飲みやすい、掃除しやすい。



※屋外の水槽はヒーター付きを設置するのが理想です。

ボール付きの事例

・ボールを外した!!



ボールを外すと水面は凍ることがあるので、氷を割って水を飲む状態にします。

- ・ボール付きの心配
- ⇒凍ることがある
 - ⇒凍っても気がつきにくく、対処が遅くなる
 - ⇒そのため、水を飲めない時間が長くなる可能性がある

油断は禁物!

パドック・運動場

冬も水の管理に気をつけてね

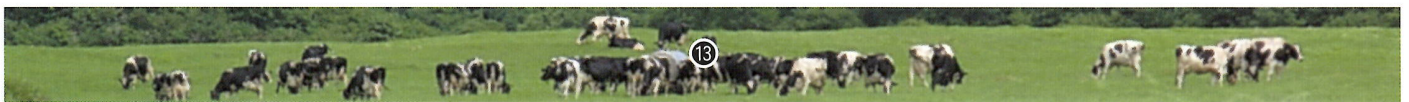


乾乳牛用パドックの事例

厳冬期も乾乳牛を「D型ハウス+パドック」で飼養している事例。水槽にホースで給水したら、ホースが凍らないように処理室にしまいます。水が凍ったら鉄棒で氷を割るようにします。そのようにして、パドックにいる時も必ず水が飲めるよう、努力しています。



氷を割るための鉄の棒



●【経営科】農ク全国大会、堀君が入賞!

10月22日(水)、23日(木)に沖縄県で開催された学校農業クラブ全国大会に本校から3人の生徒がが出場しました。大会期間中は懸念されていた台風の影響もなく、北海道から参加した私たちにとっては真夏のような気温の中での大会となりました。本校からは2年生の漆原望美さんが意見発表文化生活区分で発表し、農業鑑定競技では2年生の井上季音君と堀有樹君が畜産コースに出場しました。大会の結果、1年生の堀有樹君が畜産コースでは北海道から唯一の入賞を果たす活躍をしてくださいました。また、期間中はひめゆりの塔や北霊碑などを慰霊しました。特に戦争では沖縄県民に次いで北海道の出身者が多く戦死したという事を知り、第二次世界大戦で唯一上陸戦の行われた沖縄で平和への気持ちを新たにしました。北海道とはつかぬ沖縄の風土や農業を肌で体験し、実り多い大会参加となりました。結果は、次のとおりです。



大会式展会場にて

【農業鑑定競技(畜産)】 堀 有樹(1年) 優秀賞

●【経営科】どんぐり教室1年生と実施!

ちいさな手で、おおきな森を」を合い言葉にどんぐり教室が10月31日(金)に行われました。酪農経営科1年生17人と別海保育園の園児が手を取り合い、「どうやって(種を)おくの?」「いつ芽が出るの?」と、寒い中でも元気いっぱい播種をしている園児の姿に高校生が元気をもらう場面もありました。このどんぐりの苗木は、ある程度大きくなってから、風連川の植樹活動に使用され、将来は別海の森の一部になる予定です。参加された、安部政博代表、根室振興局森林室、別海町森林組合の皆様、ありがとうございました。



●【専攻科1年目】酪農経営管理学実施

実際の台帳作成と仕訳・元帳転記を行う前の、基本的な考え方について学んでいます。

昼食後の授業という酪農に携わる学



和やかな授業風景

生達にとっては、

一番眠い時間にも関わらず、「貪欲に学び知識として生かす」姿勢が一人一人感じられます。今年の1年目学生も、様々な年代の方がいて、熱心な姿勢が伝わります。12月からはコンピュータソフトを用いた仕訳・転記をします。このような活気づいた状況が続いてほしいです。 【文責:菊地】

●【専攻科】新規参入者交流会へ参加

10月21日(火)、根室管内新規参入者交流会が中標津町で開催され、専攻科学生12人が参加しました。根室管内農業士会が新規参入者・研修生・後継者に呼びかけ、関係者を含めて約50人が集まったの交流会となりました。



佐野さんの発表

「私が目指す酪農」というテーマのもと、専攻科学生の佐野さんが法人従業員の立場からの事例発表をおこないました。その後、グループ毎に分かれての討議と昼食交流会がおこなわれました。

グループ討議では、紹介者として参加した佐野さんはじめ、参加学生は、新規参入者の皆さんや指導農業士の皆さんと今抱えている問題点や、改善すべき点について、活発に相談や討議をおこない、今後の農場経営に向けた良い刺激と、多くのヒントを得ることができた様子でした。また、その後の昼食会においても、参加者との交流を深め、実りある交流会となりました。 【文責:中村】

●【専攻科】“あ・ら・かると”交流会参加!

11月7日(金)根室農業改良普及センターで、ねむろ農村女性グループネットワーク協議会主催の“あ・ら・かると”交流会が行われました。



発表中の様子

交流会の中で専攻科1年目学生の片野さんと田中君、2年目学生の深代さんが専攻科についての紹介や修了後の進路、思い描いている酪農経営について発表しました。発表をしている時は、女性部の皆様に興味を持って聞いてくださり、近くに酪農知識を学べる場所があることを知っていただくことができました。中には「息子が専攻科を卒業した」といった声もありました。昼食交流会でも女性部の皆様が作ってくださった料理を食べながら、様々なお話を聞くことができ、より深く交流ができたと思います。こういった機会を是非、今後の学生生活に生かしてほしいです。 【文責:海鉾】

北海道別海高等学校 2015年度 農業特別専攻科学生募集

募集概要(平成27年度入学生版)

- 募集人員……………20名
- 就業年限……………2年間

学校全体に関わる費用

- 学金や授業料等…45,550円

学生に関わる費用

- 講演会費学友会等…30,450円
- 合計費用……………76,000円
- ※平成26年度入学生初年度の費用

募集概要(平成27年度入学生版)

願書受付	検査日	合格発表
平成27年1月13日(火) ～平成27年1月26日(月)	平成27年2月5日(木)	平成27年2月13日(金)
願書受付	合格発表	
作文および面接	平成26年12月1日(月)～	

農業特別専攻科の特色

- ・18歳以上の農業を目指す方が、自家や実習先、勤務先で就労・実習をおこないながら学校で農業の理論を学びます。
- ・牧草の収穫時期には家で実践を、春・秋・冬には学校に通学して理論を学びます。
- ・授業は10時45分から始まり、14時30分には下校となっていますので、毎日朝夕の仕事ができるようにカリキュラムが組まれております。

在校生の声



2年目学生 佐野 史生
別海町法人従業員
大阪府出身

私は3年前に大阪から農業を志し、北海道へ来ました。現在、農業法人に勤務しながら、農業特別専攻科で学んでいます。就労先では、搾乳などを担当しており、将来は、さらに深く農業に従事するために、日々研鑽の毎日です。農業特別専攻科では、同じ志を持った同胞と意識を高め合いながら学びあえるところが、非常に良いと思っています。

実習先農家条件(例)

- ・3食あり、家賃なし、交通費支給、給与支給(月5万円程度)。
- ・自炊、間借りなど、ご相談に応じます。

働きながらの通学

- ・正規従業員として法人や農場で働きながら通学可能。
- ・18歳以上であれば、年齢の制限はありません。

お問い合わせ・願書請求は下記まで

〒086-0214
北海道野付郡別海町別海緑町70-1
TEL (0153) 75-2053
FAX (0153) 75-2263
E-mail bekkai-t4@hokkaido-c.ed.jp

働きながら
2年間学び
ます

ニュージー
ランドで研修
ができます
(半額助成)

全国各地から
学生が集まり
ます

青年就農給付
金(準備型)制度
対象校です



ニュージーランド農家との交流



専門性を高める授業

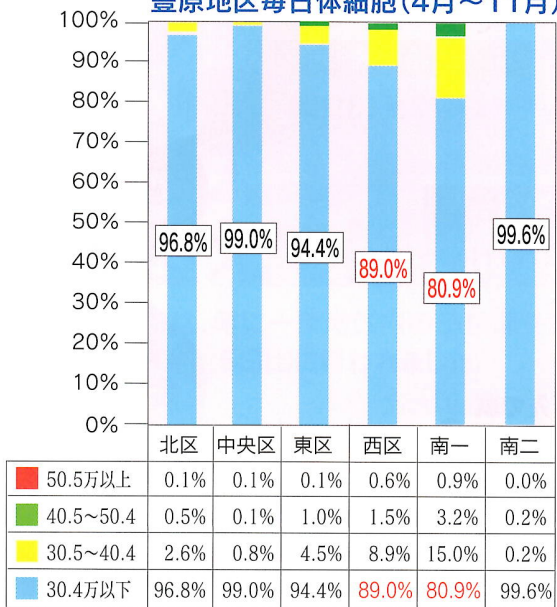


生乳汚染事故を無くそう！

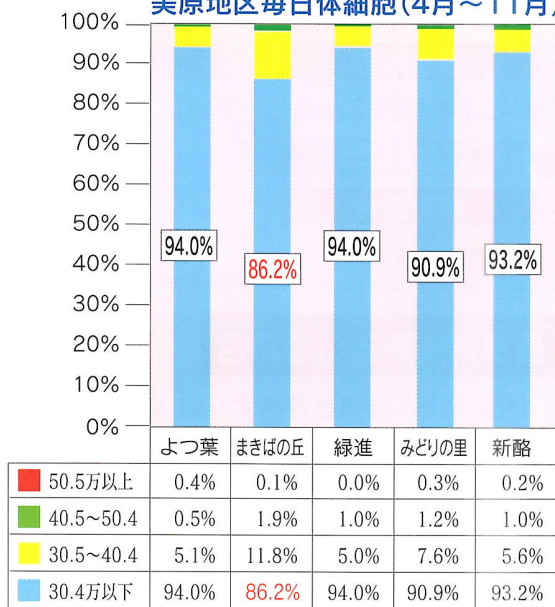
- 抗生物質混入事故…………… JA中春別発生件数 0件 管内合計では**4**件です。
- 生菌による汚染事故…………… JA中春別発生件数 0件 管内合計では0件です。
- 異物混入(小動物)、加水、**血乳**による汚染事故… JA中春別発生件数 0件 管内合計では**3**件です。
- 異臭、異常風味による汚染事故…………… JA中春別発生件数 0件 管内合計では0件です。

抗生物質汚染事故をなくそう!!
治療牛への確実なマーキング(識別)
生乳出荷前のミルクドクターの実施
<安全で安心な生乳生産に努めましょう>

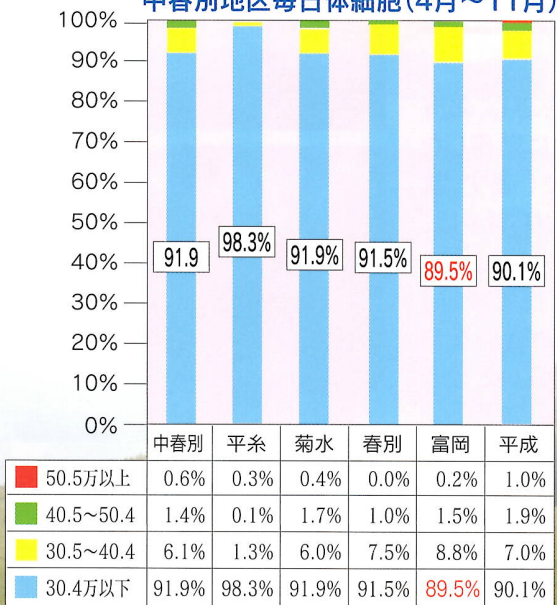
豊原地区毎日常体細胞(4月~11月)



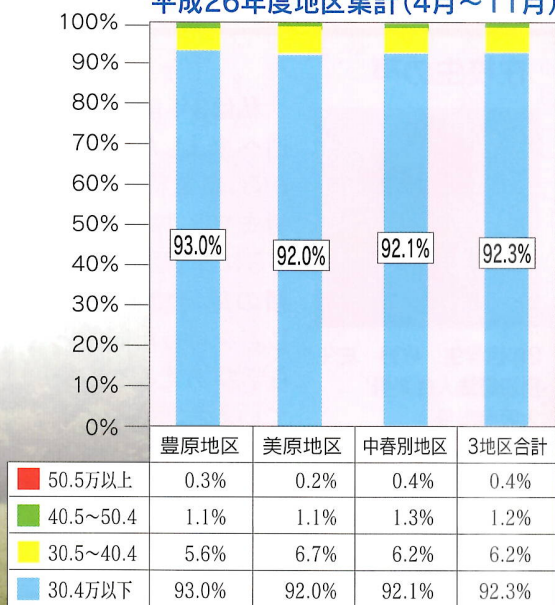
美原地区毎日常体細胞(4月~11月)



中春別地区毎日常体細胞(4月~11月)



平成26年度地区集計(4月~11月)



金融共済課からのお知らせ

10月に行われました金利設定会議において、一部の農協資金及びクミカン貸越金利の見直しを行い、現在の金利情勢を勘案し金利を下記のとおり引き下げいたしました。

【改正内容】

1. 一般証書貸付(プロパー) 4.5%→3.5%(▲1.0%)
2. 農地取得資金 3.5%→2.475%(▲1.025%)
 - ・固定金利から変動金利への変更。
 - ・短期プライムレート1.475%+上乘せ金利1.0%
 - ・短期プライムレートについては平成26年11月現在
3. クミカン貸越金利(営農貯金範囲外) 4.5%→3.5%(▲1.0%)

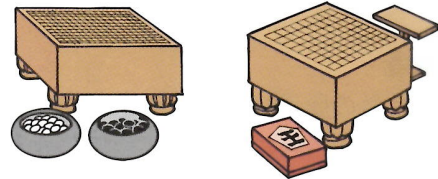
【改正日】 平成27年1月1日より

おうちで要らないもの 寄付しませんか？

ボランティア組織そよかぜでは、そよかぜサロンで使用するゲームなどを探しています。

ご自宅で昔は使っていたけれど、今は使用していない将棋や囲碁、オセロや花札などはありませんか？捨てる前に是非、そよかぜサロンに寄付して下さい。そよかぜサロンで大切にさせていただきます。

寄付していただける方は営農振興課(TEL 0153-76-2241)までご連絡ください。



そよかぜサロンに遊びに来ませんか！

ボランティア組織そよかぜでは毎週水曜日に団地センターの和室を開放し、そよかぜサロンを行っております。利用できる方は地域の皆さんです！年齢、性別関係なく、利用したい方が気軽に遊びに来られるサロンを目指しています。サロンではお茶やコーヒーはもちろん、脳トレクイズや、ちょっとしたゲームなども用意しています。お茶を飲みながらおしゃべりしたり、クイズやゲームを楽しんだりと楽しい時間を過ごしていただけます。また、血圧計や体脂肪計付き体重計もあるので健康管理にも最適です。



10月 乳質乳価一覧表

(単位:円/kg)

		単価	算出基礎	支乳価	前年同期	差	
乳脂肪分		871.844		34.81	32.34	2.47	
無脂乳固形分		552.310		48.70	45.50	3.20	
補給金		3.6471		3.65	3.72	-0.07	
計画チーズ奨励金		1.7044		1.70	1.79	-0.09	
乳質単価	生菌数	ランク1	2	299,649,058.9kg	3.72	3.67	0.05
		ランク2	0	6,186,996.8kg			
		ランク3	-3	204,620.6kg			
	体細胞数	ランク1	2	263,022,851.7kg			
		ランク2	1	23,232,964.6kg			
		ランク3	-2	4,202,630.9kg			
合計				92.58	87.02	5.56	

10月分乳代支払単価

項目	単価(円)/(kg) %	
乳脂肪分①	34円81銭	
無脂乳固形分②	48円70銭	
補給金③	3円65銭	
チーズ奨励金④	1円70銭	
脂肪率	全道	3.99%
	農協	4.02%
無脂固形分率	全道	8.82%
	農協	8.76%
成分乳価	全道	88円86銭
	①+②+③+④=⑤ 農協	88円73銭
乳質乳価⑥	全道	3円72銭
	農協	3円83銭
乳代合計	全道	92円58銭
	農協	92円56銭
⑤+⑥	差異	-2銭

第9回 理事会の動き

平成26年11月21日(金)

議案

1. 年末年始の業務日程について
2. 固定資産の処分について
3. 平成26年度9月末定期監査報告書の回答について
4. 平成26年度営農年度財産造成に伴う資金の貸付について
5. 平成26年度畜産収益力向上緊急リース事業に伴う資金の借入・貸付について
6. 平成26年度営農年度経営改善促進支援資金の貸付について
7. クミカン取引名義変更について
8. 平成26年度営農年度クミカン取引に係る貸越極度額及び供給限度額の変更について
9. 固定資産の取得について
10. 子会社出資の一部譲渡について

報告事項

1. 組合員の脱退について
2. 組合員加入について
3. 固定資産の実査の終了について
4. 平成26年度9月末子会社の監査報告書について
5. 顧客属性照会システム(CCS)定期確認における結果について
6. リース契約について
7. JAバンク2014ラストWチャンスキャンペーンの実施について
8. 平成26年度10月末営農生産関連実績について
9. 平成26年度草地生産性向上対策事業に係る実績について
10. 平成26年度糞尿利活用草地整備改良事業に係る実績について
11. 平成26年度持続的酪農経営支援事業について
12. 共和育成牧場預託牛の事故に対する互助会規程による見舞金の支払について
13. 別海町特定疾病自主淘汰事業の実施について

協議事項

1. 地区別組合員懇談会の意見集約について
2. 子会社に係る出資株の一部譲渡に係る取進めについて
3. 畜産クラスター事業について

青年部・女性部合同 お歳暮オリジナルギフトお礼と結果報告

過去最高注文総数319セットが
全国各地に発送されました

今年も青年部・女性部合同お歳暮オリジナルギフトの作成と取りまとめを行い、11月26日(水)に発送作業を行いました。発送作業では、青年部員・女性部員併せて27人の部員が集まり、全国に向けて一つ一つ真心をこめて梱包作業を行い、午前中のうちに全国各地に向けて発送されました。今年度は、ロールケーキセット、乳製品セット、ハンバーグと魚介セット、中春別産オリジナルセットの4セットを作成し、各家庭にチラシを配布しました。

各セットの結果はロールケーキセット158セット、乳製品セット87セット、ハンバーグと魚介セット48セット、中春別産オリジナルセット26セット、合計319セットと、皆様の協力のおかげで、過去最高セット数を全国に向けて送り出すことができました。

来年度以降も消費拡大を目指し、青年部・女性部協力し合い、皆さんにお喜びいただけるセット内容を作るよう考案していきますので、ご協力の程よろしくお願いたします。



平成26年度 年末・年始の業務日程表

休業

日程 区分	平成26年			平成27年						
	12/30(火)	12/31(水)	1/1(木)	1/2(金)	1/3(土)	1/4(日)	1/5(月)	1/6(火)	1/7(水)	
事務所(除く信用)	午前中のみ営業									御 用 始
事務所信用窓口	平常業務						平常業務	平常業務		
Aコープ中春別	午後3時まで営業			午後3時まで営業			午後3時まで営業	平常業務		
給油所	午後5時まで営業 (給油・配送)	9時～15時 (給油・配送)			9時～15時 (給油・配送)	8時～17時 (給油のみ)	8時～17時 (給油のみ)	平常業務		
倉庫	午前中のみ営業				平常業務					
訪問介護事業所 「あさひな」	平常業務				サービス提供のみ	サービス提供のみ	サービス提供のみ	サービス提供のみ		
人工授精	平常業務	午前中のみ業務	午前中のみ業務	午前中のみ業務	午前中のみ業務	午前中のみ業務	午前中のみ業務	午前中のみ業務		
共和育成牧場	(家畜管理業務のみ)									
生乳	抗生物質検査のみ	抗生物質検査のみ	抗生物質検査のみ	抗生物質検査のみ	抗生物質検査のみ	平常業務	平常業務	平常業務		

中春別マシンセンター	午前中のみ営業						午前中のみ営業	午前中のみ営業	御用始
------------	---------	--	--	--	--	--	---------	---------	-----

※農業機械・車両整備の連絡先 佐藤専務(携帯)090-9759-6449 土屋工場長(携帯)080-6086-3273

中ジェイエー・ワンブ	午前中のみ営業								御用始
------------	---------	--	--	--	--	--	--	--	-----

※作業依頼の連絡先 猿谷専務宅76-2076
久保山課長(携帯)090-1529-9846

ATM稼働日について

当JA 12/31(水)～1/4(日)休業
1/5(月)より平常営業
他行・セブン銀行は年内12/31(水)まで稼働
年明け1/4(日)から稼働
※1/1～3はJAシステム完全停止のため
ATMはご利用できません。

- ◎販売関連業務
- (1)初生トク集荷
年内最終集荷12月30日 年明集荷1月6日
 - (2)哺育・育成集荷
年内最終集荷12月30日 年明集荷1月7日
 - (3)ホクレン市場
最終開催日12月24日(初生のみ) 年明開催日1月7日

◎人工授精業務 午前中のみ業務、午後から休業

◎緊急時の連絡先

- (1)停電 北電72-2010
- (2)除雪 平間課長宅0153-86-2130、福島次長宅76-2157
- (3)給油 (緊急携帯)田中係長080-6090-2923
- (4)飼料等配送 (緊急携帯)別海貨物(山口)090-5072-3954
- (5)生乳検査 平間課長宅0153-86-2130(緊急携帯)090-2076-4014
- (6)夜間バルク抗生物質検査 (緊急携帯)090-2076-4014
- (7)FAX故障 赤井担当080-6096-5387
- (8)その他 高市課長宅78-9632、登部長宅75-0517

JA中春別酪農ヘルパー利用組合年末年始業務日程

- 休業 12月31日(夕)～1月4日(朝)
- 業務開始 1月4日(夕)から通常業務開始
- 緊急ヘルパー受付

- ★農協営業日 営農振興課 電話76-2241番
- ★農協休業日 高野営農振興課長 携帯電話 090-9515-0264
相澤営農振興係長 携帯電話 090-8900-9356

懐かしきあの頃。。。 そして今。



冬はソリをつけて馬に引っ張らせ、街へ行く時は乾燥した草を荷台に載せ、その上に座って出掛けていました

今月は、酪農する上で必需品とも言える「トラクター」に注目したいと思います。

現在の酪農家のお宅には、必ずと言っていいほどトラクターが一家に1台から数台あり、収穫作業、肥料散布など数多くの作業に使われ、トラクターがないと酪農が出来なくなると言っているほど、経営を支える基盤となっております。

しかし、数十年前までは、トラクターの代わりに各牧場に馬が数頭飼育され、酪農を支えておりました。

当時の馬は現在で言うところの、自動車やトラクターやトラックなどの数多くの役割を果たしており、取材させていただいた方からは、「馬と一緒にいろいろな作業をやったな!」と当時の話から始まり、「トラクターの200馬力は馬200頭分の力があるって意味なんだよ」と話を聞かせてくれました。

作業時の話では、トラクターが動かなくなると作業が中断してイライラするように、昔は馬中心に作業を行っていたので、いきなり動かなくなったりと



農繁期の忙しい時期、「イライラする部分については、今も昔も変わらないな」と当時と今を比較したりしながら教えてくれました。

現在は、牧場に馬を飼っている家が少なくなつたので、久しぶりに馬を見ると当時のことを思い出すとしみじみ語ってくれました。

編集後記

▼平成26年も残りわずかとなり、皆さんも何かと忙しい毎日を送っていることと思います。

本年中、組合だより「なかしゅんべつ」をご愛読いただきありがとうございました。

毎月発行するに当たり、組合員さんをはじめ、関係機関の皆さまや地域のみなさまに取材などのご支援とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

7月よりくみあいだよりを担当するようになり、今回で6号の発行とまだまだ勉強中の毎日です。来年も地域の話題をふんだんに取り入れ、楽しんで読んで見ていただける広報誌になるよう、努力してまいります。

▼12月に入り路面凍結でのスリップが原因とみられる物損事故が多くなっています。早朝や日陰は気をつけて、時間に余裕を持つて運転をしてください。また、これから本格的な降雪シーズンになりますので交通安全には十分注意し、健康で良い年を迎えられますよう、お祈りいたします。

アドレス <http://www.ja-nks.jp>